

# 虐待を 防ぐ

奈良から

4

たばこを押しつけられた無数の痕が残る小さな体、十分な食事を与えられずにやせ細った手足――。

橿原市の県立医科大付属病院の一室で今年4月、身体的虐待の痕を受けた子供の写真がスライドに映し出された。集まったのは同病院で働く研修医49人。痛ましい姿に思わず顔を背ける研修医に、講師を務めた「岡本内科子どもクリニック」(桜井市)の副院長、岡本和美さんが語りかけた。

「早期発見で重症化を防ぎ、一人でも多くの命を救ってほしい」

診察時に虐待の兆候を見つけてもらおうと、同病院で初めて行われた研修。医師向けのマニュアルを作成した岡本さんから県内の医師たちが将来、医療を支える若者に関心を持ってもらおうと提案した。「早期発見の重要な立場を担う役割を果たすことができれば」と県立医科大の羽竹勝彦教授(法医学)も期待



小児科医として子供に向き合う岡本さん。少しでも肩の力を抜いて子育てしてもらえるよう、育児支援に力を入れる(桜井市の岡本内科子どもクリニックで)

## 医療現場の対策

県の2011年度調査によると、医療機関からの虐待通告は2・3%。医師が母親の説明をうのみにして、たばこの火のやけど痕を「とびひ」と診断した事例も報告されている。

# サイン見逃さない

岡本さんは小児科だけでなく、外科や脳外科、産婦人科などでも発見されている事例や、虐待の特徴、医師として見抜くポイントを説明。「少しでも怪しいと思ったら、それは虐待のサインです」と訴えた。

産婦人科医を目指す女性研修医は「妊娠前から見守る支援が大切だとわかった」と言い、男性研修医は「見つけたら、すぐに周りに相談したい」と話した。

岡本さんには5人の子供がいる。勤務医として働きながら子育てに追われた。1997年から県の子育て支援に関わり、児童虐待と育児不安が密接に関係

身体的虐待 県が11年度に受けた児童虐待相談972件のうち、身体的虐待が最も多い365件。言葉による脅しなど心理的虐待が314件、育児怠慢・放棄(ネグレクト)が265件と続いた。虐待に関与したのは実母が7割で、父親と合わせて実の両親が9割を超える。

同時に医療機関の責務も感じた。「二度と悲劇を繰り返さないためにも、サインを見逃さない」。小児科医として、母として全力を尽くそうと決めた。

診察時、子供を連れた母親の表情が疲れているように思うと、さりげなく声をかけるようにしている。「何か心配なことはないですか?」

していることを知った。育児相談や講演では、自身の体験を踏まえながら、「子育ては山あり谷あり。100点満点なんてない」と伝えてきた。

そんな中、桜井市で2010年3月、5歳男児の虐待死事件が起きた。児童虐待について各機関と情報を共有する同市の協議会会長を務める岡本さんはショックを受けた。「なぜ気付かなかったのか」。すぐに調査委員会をつくり、1年間、検討を重ねた。

その結果、近くの住民が子供の泣き声に気付いていたこと、乳幼児健診を受けていなかったことなどの兆候があったことがわかった。「周囲に関心を持ち続けてほしい」と住民向けのチラシを刷新した。

## 三輪素麺にブランドマーク

組合認証 大神神社鳥居デザイン

に並ぶという。

橿原市のショッピングセンター「イオン橿原店」が

受納コンクリート工場、

大和高田市の山田義弘さん(67)、清子さん(65)夫婦

は「ロゴがあると品質に安心感がある」と期待している。

土砂が流出した天の川の支流(7日、天川村で) 県南部農林振興事務所提供

大仏殿・五重塔を眼下に… 奈良市内の眺望処

公画 □宿泊プラン

全日本少年大会

「最高の舞台で新たな歴史」

高田イレブン、壮行会で誓う

第36回全大会(諸

一大会)に県代表

するディアア

(大和高田

12日、大和

中央公民館が

健闘を遂